整理番号

D－1－1　　321

標 題 名

農事試験成績要報第１７号

土耳古種煙草

著 者 名

発行者名

農商務省農事試験場

発 行 年

明治 37 年(1904 年)

製作年月

2019年10月

粹AO

明治三十七年七月

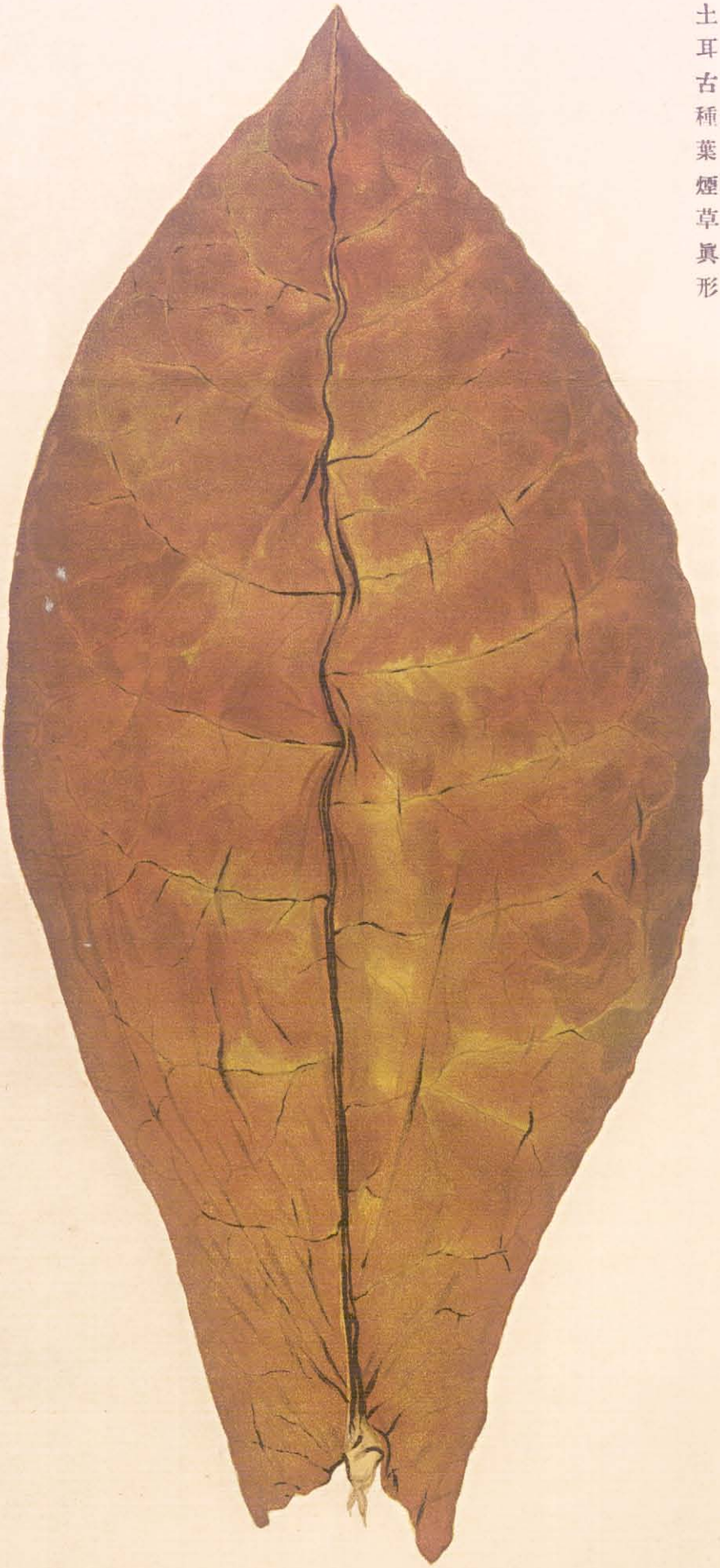
農事試驗場要報

第十七號

土耳古種煙草

農事試驗場

土耳古種葉煙草眞形



本報は本場附屬煙草試驗地に於て從來土耳古煙草を試作し以て本邦在來の刻煙草を試製せしに一種高尚なる優等品を得たり依て之か栽培の方法を略記し本邦刻煙草の材料こして此の一新種を世に紹介せんこす

明治三十七年七月

農事試驗場

（東京西ヶ原）

目次

土耳古煙草

苗床の構造
苗床の肥料
播種の時期と播種量
播種後の注意と手入
移植の時期と其の方法
本圃の肥料
移植後の手入
摘蕊の事
收穫と其の方法
乾燥の方法
乾葉の品質と産額

農事試驗場要報第十七號

土耳古煙草

本種は。紙巻煙草ことして世界に知られたる。有名の銘葉にして。市場に於も。常に非常の高價を保つことは。普く人の知る所なり。此を以て本場は。この種子を外國に求め。明治三十三年。始めて之か試作に從事し。爾來毎歲種々の試驗を實施して。本種の性狀、品質、香味、色澤等の各要點に就き。之か調査を行へり。而して如上實驗の結果に依るときは。此の土耳古種なるものは。其の栽培の方法等に就き。敢て困難を感するか如きことなく。極めて平易にして而かも甚た強壯なる種類なることを確めたり。只其の香味に至りて。豫想の如き土耳古種固有の香氣、風味を缺けるは頗る遺憾とする所なるも。色澤鮮麗にして。葉質は細美に且つ彈力に富み。喫味は高尚軟和にして。一

種の芳香を有し。他に何等の悪癖なく。之を本邦刻煙草こして。頗る優等の製品を得たるのみならす。紙巻煙草の材料こして。亦大に本邦人の嗜好に適するものゝ如し。故に左に之か栽培上注意すへき要點を列擧し。此の有望なる一新種を煙草栽培者に紹介せんこす。

苗床の構造

苗床の構造は。本場普通の方法こ異なるなきも。今參考の爲め。其の概要を述ふれは。先つ嚴霜前に東南若くは南面の日當り宜しき場處を選み。所要の面積を區劃り。東南又は南方のみを開放し。他の三方に。高さ六尺以上の藁圍をなし。以て寒風を防き。床は揚床こなし。幅を四尺こして東西に長く。何程にても所要の面積を區劃り。地面より約三寸掘り下け。高低を均し。床面の周圍は。一間毎に。地上約一尺の高さに杭を打ち込み。杭の上端こ中央こ。二段に丈夫なる竹又は丸太の類を横に結ひ渡し。而して上段の横木又は

竹に藁を。一摶つゝ握りて其の穗先の一端を巻き付け。下段の横木又は竹を外に出して。藁の根元を地上に垂下し。順次斯の如く全部を圍みて揚床の外側こなし。以て高さ地上一尺内外の長方形の苗床を造るなり。右の構造を了らは。一坪約二十貫目の割合を以て。濶葉樹の落葉を入れ。充分に之を踏み付けて高低なからしめ。更に一坪に付き。堆肥約二十貫目を置き。次に二寸厚さに藁を敷き。次に普通の耕土を約四寸の厚さに載せ。之を鎭壓して。其の上部に多量の有機物を含有する肥土を篩に掛け。之を約二寸の厚さに置く。是れ卽ち他日種子を播下すへき表土なりこす。

苗床の肥料

苗床の肥料も。亦在來本邦種のものに比し。敢て異なるこゝなしこいへこも。參考の爲め。左に列記せん。但し苗床一歩に對する數量こ知るへし。

堆肥　二貫目

人糞　一斗
大豆　一升五合
油粕　一升五合
木灰　一升

右肥料中。堆肥は充分に腐熟したるものを細砕し。人糞は少しく風呂水等を加へて稀薄したるもの。又大豆は沸煮したる後。堆積醱酵せしめ。既に褐色に變したるものを用ふへし。次に之を施用するは。二月初旬にして。最初に堆肥を敷き。上より人糞を灌き。次に大豆、油粕及木灰の混合せるものを撒布し。表土と共に攪拌混合し。爾後も時々之を攪拌して。充分に表土と混合しめ。併て肥料の均一に腐熟る樣注意すへし。

播種の時期と播種量

播種は三月初旬にして。卽ち彼岸の約二週間前とす。播種量は一坪に付き。

種子五分の割合を以て。是に麩二合を混合し手にて撒播す。又播種の際。麩に替ふるに木灰を以てするも可なるへし。總て播種の前には。床面を均し。輕く鍬の背等にて抑壓し。播種終らは。再ひ其の上を壓し付け置くものこす。

播種後の注意こ手入

播種を終らは。如露にて水を灌き。床面こ直接に藁を二本重に均一に敷き竝へ。藁繩二條を横に引張りて敷藁の押へこなし。苗床の上部より床緣に掛け渡して葭簀を置き。更に厚き菰類を以て其の上を覆ふ。而して葭簀こ床面の間には。約二寸以上の空隙を存するものこ知るへし。斯く如上の設備を終りたる後は。常に苗床の乾燥に注意し。若し乾燥に過くるこあらは。温暖なる時を見て灌水すへし。然れこも。之か爲に苗床を過濕せしむるか如きこあるへからす。今三月初旬に播種したるものこするこきは。四月初旬には。漸次發芽するか故に。宜しく此の期を察し。約一週日前より。床面の敷藁を

少しく薄くし。晴天の日は。外氣の温度の昇るを待ちて。上部の覆物を去り。日光を受けしむへし。若し天候變して降雨こなり。又は強風の起らんこする恐あるときは。速に覆をなして氣候の劇變を避けさるへからす。又設令へ晴朗の日こいへこも。未た外氣の温かなる間。卽ち午後三時より四時の間に。再ひ覆をなし置くへし。要は只時々外氣日光に觸れしめて。苗の發育を健全ならしめんこするに外ならす。又床面の敷藁は。苗の發育に件ひて。漸次に薄くし。既に四枚以上の葉を生し。苗亦稍〻強健こなり。外氣の感應にも堪ゆるを認め。茲に全く之を除去するものこす。而して上部の葭簀又は菰の覆物は。晴朗の日は成るへく之を除きて。日光外氣に觸れしむるここ。甚た肝要なりこいへこも。未た降霜の恐ある時期中は。夜間必す覆をなすここを忘るへからす。

間引は三回乃至四回之を行ひ。最初は苗の互に接觸さるを程度こし。最後に

は約一寸五六分平方に。苗一本を殘すへき程度を以て之を行ふ。而して此の土耳古種は。本邦在來種よりも發芽すること早く。其の生育も亦速なり。從て其の移植期の如きも。約一週日早し。故に此種の栽培を試んこするものは。豫め其の用意あらんことを要す。

移植の時期と其の方法

移植の時期は。五月下旬にして。當時苗の狀態を調査するに。草丈約一寸五分。葉數は子葉共に約十一枚。下部より七八枚目のもの。最も大にして。葉幅二寸餘。葉長四寸內外。葉形は楕圓狀にして葉柄なく。銳角をなして莖に附着し。葉色は綠色を呈す。主根は約一寸二三分にして。側根密生し。一本の生量約一匁二分內外あり。

移植の方法は。早朝露の未た晞かさるとき。床面に水を灌きて表土を和らけ。成るへく根の損せさる樣。又根邊の土(俗にハチこいふ)脫離せさる樣に注意

して拔取り。之を適宜の籠に移し。覆をなして日光を除け。本圃に送致す。本圃の前作大麥は。豫め畦幅一尺八寸こなし置き。移植に際し。大麥の畦間を地均し。其の畦間の中央に。六寸つゝを隔てゝ。唐鍬の類にて。小穴を穿ち。玆に一番肥を入れ。一寸許土を被ひ。其の上に淺く苗を植付くるなり。其の苗數は一段歩に付き。約一萬本を要す。而して畦幅の一尺八寸は。爾後の手入。又は驅蟲等の作業上。前記の畦幅を必要こするか故に。斯は定めたるものにして。これより廣きも。何等大なる利益なきのみならす。却て收量を減し。品質を損ふここあり。又株間の距離に付ては。四寸内外の近距離を宜しこする說あれこも。今日まて實驗の結果に依れは。前記の五寸乃至六寸位を以て適當こ認めたり。其の理由は。株間の餘りに廣きに過くるこきは。煙草の生育は盛んなるも。葉質は脆く。色澤悪しく。香味も亦佳良こ云ふへからす。又株間の餘りに近きこきは。色澤は不良さるも。葉肉薄く。香味甚

た乏しきか故なり。而して此の土耳古種は。前にも述へたる如く。在來の本邦種に比して。頗る強壯なるか故に。植傷み少なく。殊に旱天にして。土壌乾燥き。在來種にては。根付の困難なる場合に於ても。格別の故障なく。能く生育つものなり。

本圃の肥料

肥料は。之を在來種の用量に比し其の量少なし。卽ち在來種の普通肥料及其の用量は。一段歩に付き。油粕四十貫目。堆肥四百貫目。木灰八貫目なるも土耳古種にありては。左の分量を以て足れりとす。

油粕　二十四貫目
堆肥　二百四十貫目
木灰　十二貫目

右の分量は。從來の試驗に依りて。適當と認めたるものにして。若し是より

其の量を減すときは。外觀上乾葉の品質優美なる如きも。葉に力なく。且つ貯藏中色澤を變するの虞あり。又之か用量を增加せんか。葉質は比較的に脆く。綠色を脫せさる傾きありて。香味も亦宜しからす。然れとも栽培地の氣候土性により。肥效に差異あるは。皆人の知る處なれは。實際試作に從事んこするものは。宜しく右の肥料を一の標準とし。之を加減して應用ふるに於ては。蓋し大なる誤なからんとす。

施肥の方法は。前記の肥料全量を折半し。其の一部を基肥とし。移植の部に述へたる如き方法を以て。植付前に之を施用し。他の一部を。二番肥として。移植の後約二十日を經て之を施用す。其の方法は。煙草の根際より。二三寸の處に。唐鍬にて小穴を穿ち。茲に肥料を入れ。土を以て被ひ置くなり。

移植後の手入

苗を麥作の間に移植すろは。日光の直射。不時の强風等に依り。嫩苗植傷み

を防き。根付を速かならしめ。強壯なる生育の發作を與へんか爲めにして。移植後約二週日は。麥作の間にあるものこす。而して此の土耳古種は。在來種に比し。生長速なれは。之か前作たる。大麥又は稞麥は。成るへく早熟種を選むこと肝要なり。斯て麥の成熟するに至らは。速に之を刈取へし。若し麥の成熟か煙草の生長に伴はすして。後るゝことあらは。多少の早刈は。此際止を得さることゝして。斷行するを得策なりこす。但し此事たるや。敢て土耳古種の栽培にのみ然るにあらす。普通一般の煙草作に於ても。亦斯くあるへきものこ知るへし。麥刈を終らは。繼て二番肥を施すこと。肥料の條に述へたるか如し。尚ほ引續き土寄を行ふ。其の方法は。最初鍬にて煙草一本つゝ。充分に其の根元へ周圍の土を盛り掛け置き。然る後。普通の土寄せの如く。兩側より土を盛り寄せ。遂に蒲鉾形の畦を造るなり。除草は。一回又は二回必要に應して之を行ひ。驅蟲は收穫を終るまて。日々怠るへからさる

なり。

摘蕊の事

本種栽培は。摘蕊をなさゞるを以て本法とす。是れ他の種類に於て。曾て見るへからさる所なり。然れとも。本場試驗地に於る。種々の摘蕊に關する試驗の成績に依れは。土壤肥料。若くは氣候等の關係より。葉肉薄きに過きて。香味に乏しく。且つ收量も亦寡少なる場合に於ては。摘蕊を行ひて。多少如上の缺點を補ひ得へきか如し。故に摘蕊をなさゞるは。本種栽培の本則なりこいへとも。地方に依りては。或は摘蕊を行ふて。却て良好の結果を得ることなしとせす。是等は宜しく栽培地の風土と。生產品の性狀に鑑み。之を取捨すること肝要なり。而して摘蕊を必要とするときは。如何なる場合といへとも。發蕾後。七月下旬。僅に花房を摘み去るか。然らさるも。成るへく高く摘蕊をなすへし。此れ摘蕊すること。低きに過くるときは。葉質を脆

くし。色澤を損すること大なれはなり。

今假りに摘蕊を行ふものとして。玆に參考の爲め。當時煙草發育の狀況を述へんに。草丈は四尺内外。葉數は二十五六枚を着け。其の葉長は。最大のもの中葉にて。約八寸五分。其の幅約四寸六分。葉の外觀强壯にして。葉肉厚からす。葉色は綠にして。微かに黃色を帶ふ。是れ本種當時の常態なりとす。

收穫と其の方法

土葉の收穫は。約七月下旬より始まり。採集したる葉は。之を藁繩に挾みて聯乾とし。又中葉の枯れ上るへき現象を認めなは。深く注意して。之か成熟の適度を考察し。土葉と等しき方法に依り。速に之を收穫し。決して枯死の狀態に陷るまて。放棄し置くへからす。尙ほ上部の各葉も。亦其の成熟するに伴ひ。逐上搔取の法に依りて。聯乾となすを土耳古種本來の方法となすも。本邦刻煙草の原料としては。之を幹刈として乾燥すを良法とす。其の幹刈を

行ふは。概ね八月中旬にして。時刻は氣候乾燥なれは。朝露の晞かさる間に採集し。氣候濕潤なれは。露の消ゆるを待ち。午前中に收穫し。同時に之を乾燥場に送るへし。而して茲に特に附記すへき一事あり。卽ち摘蕊を行はさるものは。摘蕊せるものに比し。下葉より枯れ上る。數の比較的に多きこと是れなり。故に前者にありては。中葉の半數は。前記の方法に依りて。隨時之を掻取り收穫するの必要あるものとす。

次に收穫當時の生育狀況を略記して。參考に資へんか。其の草丈は四尺五寸內外。葉數二十八九枚を着け。其の葉長は。最大のもの(本葉)にて。約七寸九分。葉幅約四寸五分。各葉の平均距離は。一寸五六分にして。葉肉稍〻加はりて薄からす。色は綠にして頗る强健なる外觀を呈するものなり。

乾燥の方法

土葉は前條に述へたるか如く。採集後。之を藁繩に挾み。聯ことなして日乾こ

し。幹刈の時期までに。採集せし中葉は。同しく之を聯ことなして。室内乾燥を行ふへし。若し此種の中葉をして。自然に枯死るに任せて顧す。之を取扱ふに。土葉と同一の方法を以てせんか。其の不經濟なるや知るへきのみ。幹刈の乾燥は。孰れも室内に於て之を行ふか故に。特に乾燥室の設備なきものは。豫め納屋若くは家内に。之か設備をなすを要す。即ち屋根裏に。約一尺の距離を隔てゝ。竹又は細木の丸太を架し。必要に應し。幾段にても。下方に約四尺を隔てゝ。竹又は丸太を架け連ね。以て煙草を懸吊る用に供すへし。次に圖上より乾燥室に送致ひたる幹刈煙草は。其の刈口より。約三寸の上部に。大凡四十度以内の角度を以て。 の如く。竹串(イ)を差込み。全體を顚倒し。約七八寸距離に。前記の竹又は丸太に懸吊して乾燥す。若し乾燥期中。空氣乾燥に過くる時は。成るへく戸障子を閉ち。室内濕分の逸散を防き。又降雨多くして。空氣濕潤に失る時は。火爐に炭火を焚き。過多な

る室内の濕氣を排除て。常に室内乾濕の調和を計り。以て完全の乾燥を期すへきなり。斯くして乾燥を終了るは。通常九月下旬なりこす。

乾葉の品質と産額

乾燥葉煙草に就き、調査するに。葉長は約七寸六分。其の幅約三寸七分。十枚の葉量は。二匁弱にして。葉肉厚きに過ぎす。葉脈細少にして。中骨と葉の歩合は。約一と三なり。色は黄褐にして。引火普通なるも。灰色純白。喫味緩和にして。一種高尚の芳香あり。依て試に本邦刻及紙巻煙草を製造して。之か評價を求めたりしに。大藏省專賣局に於ては。刻煙草は。百匁に對し一圓二十錢。紙巻煙草は。百本に付。二十八錢と評價せられ。茨城縣太田町煙草製造組合に於ては。更に數段高價なる品評をなしたり。以て品質の大略を窺ひ知るこことを得へし。而して其の産額如何を見るに。之を從來の實驗に徴すれは。甚た多しこいふ能はさるも。其の植付の畦間を。一尺八寸こし。株

間を五寸とするときは。一段歩に對し一萬五千本。又六寸の株間とするときは。同一萬本にして。是より生産する乾葉は。約四十貫目乃至四十八貫目の間にあるへし。又生葉と乾葉との比例を調査するに。土葉及中葉の一部にして。聯乾させしものは。乾葉の歩合約一割一分。其の他の幹乾に於ては。約二割二分五厘を示し。煙草一本より生産する乾葉の量は。平均四匁強に相當す。此れ皆從來の試驗成績に基き。算定したるものなるを以て。大體に於て大差なきことを信するものなり。

明治三十七年七月五日印刷
同　年七月八日發行

農事試驗場
（東京西ヶ原）

東京市日本橋區兜町二番地
印刷者　齋藤章達

東京市日本橋區兜町二番地
印刷所　東京印刷株式會社

植物防疫資料館
C-11-007
農業技術研究所
寄贈
D
1-1
321